



▲気持ちを入れ替えようと今年、新調したユニフォームでいきなり全国大会への出場権を手に入れました。

結成 15 年目で初の全国へ

広瀬ベースボールクラブ (HBC)

「結成15年目で全国大会に初出場することができました」と話すのは、代表の花谷輝之(広瀬町)さん。

「世代交代を経て、今年から新メンバーが加わりました。心機一転、みんなで勝てるチームにしよう」と話し合い、練習回数を増やすなど強化を図りました」と話します。

その結果、5月の県大会、6月の中国地区大会を勝ち進むことになりました。花谷さんは「チームの持味は守備が固いところです。平日練習は守備の強化に取り組んでいます」と話すように、試合では相手チームより少ないヒット数でも守備力でカバーし勝利することができたと言います。

「ただ、社会人野球ならではの悩みも。「夜勤や急用で練習日程の調整が難しく、平日は10人程度、休日は15人程度で練習するしかありません」。

メンバーの22人中、約8割は広瀬町在住者という広瀬ベースボールクラブ。休日練習には、野球部を引退した中学3年生が参加します。地域に密着した社会人チームのチャレンジは続きます。

選手兼監督の岩田祐紀さん(広瀬町)は「全国大会に出場が決まってから地元の人から『がんばれよ』といった声をかけられるようになりました。声援は嬉しくもあります。選手たちにとってプレッシャーとなり、良い緊張感を保つことができています」と話します。また、「楽しくやりつつも要所では締めて集中して練習しています」と勝ちにこだわっていることを明かします。



▲この日の練習は、守備が中心。休日早朝には、松江市内のバッティングセンターを貸し切って打撃練習を行います。

編集後記

▼市内の多くの小中学校で行う環境への取り組み。牛乳パックのリサイクルや環境イラストコンテストへの出品。私が小中学生のころにはなかった習慣を知り、環境問題への意識の高まりを実感しました。なお、同コンテストの優秀作品は12月末から1月初頭に「プラナ2階」で展示予定とのこと(旬)

▼今号の取材で安田要害山に初登頂しました。山頂からの大山の眺めは絶景。あえて擬音語で表現するならば「ドーン」という感じです。裾野から山頂まで全体を見ることができ、大山が大地に鎮座しているかのようです。機会があれば、朝焼けやマジックアワーの撮影にチャレンジしてみます(〆)

安来市の人口と世帯数 H30.9.30現在

人口合計 / 38,979人
(男:18,691人 女:20,288人)
世帯数 / 14,313世帯



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。